

6. 飛鳥・奈良時代

1. どうして飛鳥に数多くの宮殿がつくられたの？

『日本書紀』によると、592年推古天皇は豊浦宮で即位します。このあと約100年間、孝徳天皇の難波宮と天智天皇の近江大津宮をのぞいて、わが国の宮都は奈良県の飛鳥・藤原地域を離れませんでした。これが飛鳥時代です。この時代、飛鳥にはたくさんの宮がつくられました。一人の天皇が複数の宮をつくることはあっても、同じ宮を次の天皇が使うことはほとんどありませんでした。その最大の理由は、「死のケガレを嫌うこと」だったと考えられています。天皇の住んでいる宮の周辺には役所がおかれ、天皇を中心に役人が政治をつかさどっていました。



飛鳥の主な宮都



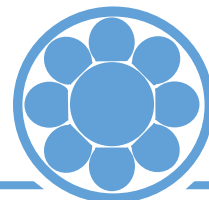
飛鳥の宮 復元模型



エビノコ大殿 復元模型



エビノコ大殿跡



飛鳥京跡 復元された井戸



島庄遺跡 土馬



「小治田宮」墨書土器

【飛鳥の宮の推移】

天皇在位 宮の名称	推古 592 ~ 628	舒明 629 ~ 641	皇極 642 ~ 645	孝徳 645 ~ 654	斉明 655 ~ 661	天智 668 ~ 671	天武 673 ~ 686	持統 690 ~ 697
豊浦宮								
小墾田宮	603							
飛鳥岡本宮		630						
田中宮		636						
厩坂宮		640						
百済宮		640						
飛鳥板蓋宮			643		655			
難波宮				645				
後飛鳥岡本宮					656		672	
近江大津宮						667		
嶋宮								
飛鳥浄御原宮								
藤原宮								694

飛鳥時代の宮は左図のように変遷したことが『日本書紀』で知ることができます。確かに天皇ごとに宮がつけられたことは明らかですが、つけられた場所をみると難波や近江に遷都した一時期を除けば、ほぼ現在の飛鳥の盆地とその周辺に集まっています。また、飛鳥岡本宮、板蓋宮、後飛鳥岡本宮、飛鳥浄御原宮は同じ場所に建て替えたか、増築されたことが最近明らかになっています。

飛鳥時代になり、政治の仕組みも複雑になってくると、天皇の宮殿に付属する役所の数も増えたことでしょう。天皇がかわるたびにそれら全てを引っ越すのは大変な事だったと思われます。宮の位置が固定化してくるのはこのようなことも理由の一つと考えられます。

5. どうして飛鳥時代に寺院がつぎつぎとつくられたの？

ヤマト政権の実力者で、渡来人とかかわりの強い蘇我馬子は、飛鳥寺を建てるために必要な専門家や技術者を百済からよびよせたと『日本書紀』には書かれています。そのなかには、寺院建築の技術者、瓦づくりの専門家たちがいました。このことは飛鳥寺から出土した瓦が百済の寺院から出土する瓦に似ていることから証明できます。

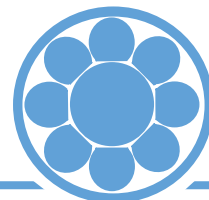
約20年もの年月をかけて完成した飛鳥寺には、塔や金堂がたち、その大きな屋根は瓦でふかれています。当時の人々がこれまでに見たことのない日本初の瓦葺きの壮大な建物が誕生したので、金堂に安置された釈迦如来像は、補修されているにもかかわらず目などに飛鳥仏の特徴をとどめ、現在でも飛鳥大仏と呼ばれ親しまれています。

また、594年に推古天皇が「仏法興隆の詔」をだすと、他の豪族たちの間にも寺院の造営が急速に広まりました。天皇にくわえて多くの豪族も寺院を建てたのです。下の表は飛鳥時代に建てられた大和の代表的な寺院とそれを建てた天皇と豪族を整理したものです。このように大和にはつぎつぎと寺院が建てられました。これらの寺院は仏教を普及させる役割をもっていました。



飛鳥・奈良時代の寺院

飛鳥のおもな寺院	
寺院名	建てた天皇・豪族
飛鳥寺	蘇我馬子
豊浦寺	蘇我氏
坂田寺	鞍作氏
和田廃寺	葛城氏？
檜隈寺	東漢氏
百済大寺	舒明天皇
山田寺	蘇我倉山田石川麻呂
軽寺	軽忌寸？
川原寺	天智天皇
薬師寺	天武・持統天皇
橘寺	？
紀寺	紀氏？
久米寺	久米氏



古代寺院の瓦の変遷

飛鳥時代前半



韓国東南里廃寺の軒丸瓦



飛鳥寺の軒丸瓦



豊浦寺の軒丸瓦



斑鳩寺の軒瓦

飛鳥時代後半



法隆寺の軒瓦



山村廃寺の軒瓦



紀寺跡の軒瓦



本薬師寺の軒瓦



奈良時代

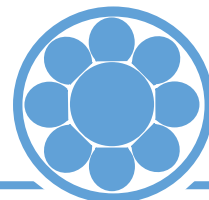


大安寺の軒瓦



東大寺の軒瓦





7. 飛鳥時代にはなぜ古墳が作られなくなったの？

実は、飛鳥時代にも古墳は作られていました。古墳時代のような大型なものや、前方後円墳は作られなくなり、小型の円墳や方墳が中心となりましたが、なかには平面が六角形や八角形のものも見られるようになります。死者を埋葬する石室も、横口式石槨と呼ばれるものや、レンガのように割った石を積んだセン積石室といったものが登場します。こうした変化は当時の中国や朝鮮半島の影響が大きいと考えられています。また、飛鳥地域で見つかった古墳からは、量は少ないものの豪華な副葬品があったことがわかっています。高松塚古墳やキトラ古墳のような壁画を描いた古墳が登場するのもこの時代です。

しかし、7世紀後半になると古墳もほとんど作られなくなります。



漆塗陶棺（斑鳩町竜田御坊山古墳）



七宝飾金具
(明日香村牽牛子塚古墳)



金銅八花形飾金具
(牽牛子塚古墳)



三彩円面硯とガラス管（竜田御坊山古墳）

11. 奈良の大仏はどのようにしてつくられたの？

奈良時代の政治は、仏教によって国を平和にし、社会を安定させる「鎮護国家」^{ちんここっか}という考え方ですすめられました。東大寺の大仏づくりはまさにそのシンボルといえます。

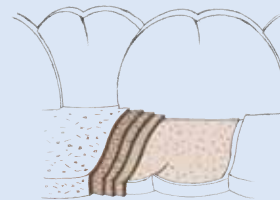
どのようにつくったの

1. 実物大の塑像^{そそう}をつくる

木や竹などでつくった骨組み^{ほね}の上に土^どを塗って、大仏の原型をつくる。

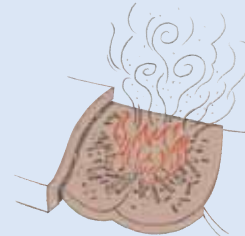


2. 鋳型^{い がた}の外枠^{そとわく}をつくる



塑像の上に別の土を重ねて、鋳型の外枠をつくる。

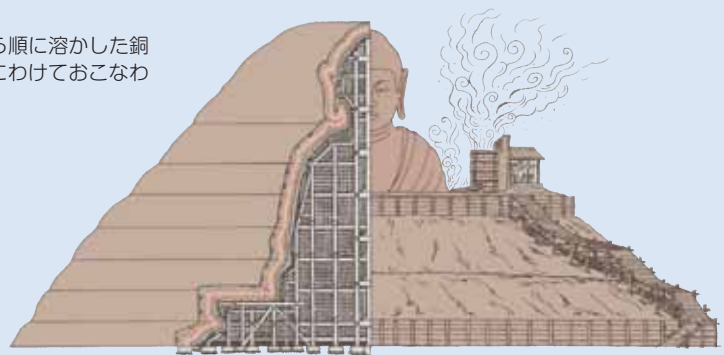
3. 塑像^{けす}を削り、鋳型を焼く



一度外枠をはずし、塑像をけす。そのあと、塑像と鋳型の外枠を焼く。

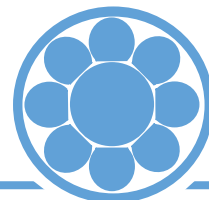
4. 鋳造^{ちゅうぞう}する

もういちど鋳型の外枠をつけて、下から順に溶かした銅を流し込んで、鋳造する。鋳造は8回にわけておこなわれた。



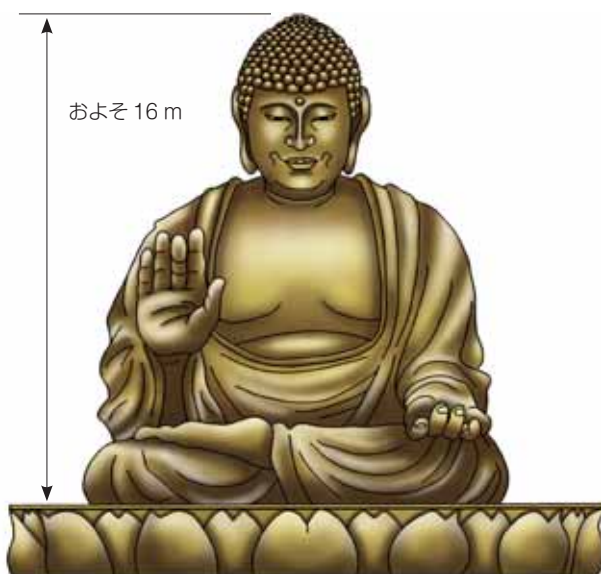
5. 大仏が完成する

まわりの盛り土と鋳型をはずし、欠けた部分などを修理する。表面をみがき、鍍金（金メッキ）をして、大仏が完成する。



どのくらいの期間がかかったの

大仏の開眼式が行われたのが752年ですから、聖武天皇の「大仏建立の詔」から9年の年月が流れていることになります。なお、東大寺に残されている史料によると、大仏の鑄造作業は、747（天平19）年9月29日に開始され、749（天平勝宝元）年10月24日に作業が完了しています。つまり、大仏鑄造にはおよそ2年かかったことになります。また、鑄造は8回にわけておこなわれたと記録されています。



大仏の大きさ

材料の銅はどこから運ばれてきたの

東大寺大仏殿西回廊西側の発掘調査で、大仏鑄造にかかわる遺物が大量に出土しています。この時に出土した炉の破片に付いていた銅の成分を分析した結果、山口県の長登銅山でとれた銅であることがわかりました。

長登銅山は、山口県のほぼ中央にあり、昭和37年（1962）まで操業がつづけられていた銅山です。奈良時代の長登銅山の銅は、和同開珎の原料にも使われていました。

長登銅山の銅は、おもに船を使って東大寺まで運ばれました。正倉院文書には東大寺から長門国司にあてた書類があり、運搬船の乗組員の食料や給料などが記録されています。また、銅は一度に「二万四千四百七十四斤」が東大寺におさめられています。一斤は約675gです。



東大寺鑄造遺構